

高齢者が学びで元気になるおとなの学校とは

—熊本市・医療法人社団 大浦会 介護老人保健施設おとなの学校本校で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：熊本市には何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)高齢者が「学びで元気になるおとなの学校」を視察させていただくために、この6月20日(木)に私一人で出かけました。

Q：林さんはなぜ介護に関心があるのですか。

A：(1)20年ほど前から、私の地元にある社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホームの理事を拝命しているためです。また、公益社団法人経済同友会の医療や社会福祉改革に関する委員会に10年あまり所属し、時々政府に対する提言書の策定に向け、調査・研究をしてからです。

(2)団塊の世代世代が後期高齢者と呼ばれる75歳を超える今から12年後の2025年までに、医療・介護・福祉の抜本的な改革を国をあげて成し遂げないと、現在GDPの2.5倍の1000兆円以上の国と地方の債務を抱える日本の財政は破綻し、日本経済は大混乱に陥ると予想されます。では、いったい何をどうしたらよいのか。野田内閣が総選挙に敗北してまで決定した消費増税もその解決策の一つです。

(3)要介護度をこれ以上高めない、できれば要介護度を少しでも下げるこの「おとなの学校」のような取り組みは、高齢者のクオリティ・オブ・ライフ、つまり生活の質を高めると同時に、日本国や自治体を破綻から回避させる有力な方法の一つだと私は考えます。はっきり言えば、高齢者が「学びで元気になるおとなの学校」の取り組みは要介護度を下げ、高齢者が生きがいを見出し、同時に国や自治体の財政負担を増加させない世界でも極めてユニークなノーベル賞に値するような取り組みと私は期待します。

Q：話が難しくよくわかりません。そもそもこの「おとなの学校」とは何ですか。

A：(1)長年、医療法人や社会福祉法人として急性期病院や特別養護老人ホームを運営してきたピュア・サポートグループ(医師の大浦敬子代表)が運営する入所・短期入所医療介護施設です。

(2)対象は、要介護1～5の方で、短期入所は要支援の方も利用できます。入所後自宅に帰りたがりハビリを継続したい人。胃瘻・バルーン留置・在宅酸素・インシュリン管理が必要な人。徘徊や昼夜逆転、大声等があり、常時認知症のケアが必要な人。自宅での生活を継続するため、短期間のリハビリを希望する人です。

(3)「おとなの学校」のサービス内容としては、学校生活を再現した学び舎でいつも「ありがとう」と「おめでとう」に溢れ、入所である生徒さんの意欲を引き出すこと。人生の最期までいきいきと考えのもとに、入所から卒業まで同じ仲間と共に学び、生活を共にすること。卒業・看取りまで安心して生活できるまで支援。脳のリハビリ、回想法を採り入れた事業で認知症の予防と進行防止。初詣・夏祭り・文化祭・成果発表会等で季節の行事を楽しむ。公文式の学習療法教材を使用。入学式・甲乙丙丁の通知表・卒業式もあります。

Q：どのような1日なのか。

A：(1)9時30分朝礼。チャイムがなり、出席確認をラジオ体操。

(2)10時から1時間目。体育の授業として体操と簡単なゲーム。

(3)10時30分から学習療法。レベルに応じたテキストで頭の体操、認知症の進行予防。

(4)12時昼食。14時から2時間目として黒板を用いた国語や社会の授業で学生時代にタイムスリップ。

(5)15時おやつ。要介護の方は療養室で読み聞かせや語りかけ。

Q：歌って踊れる「ジャニーズ系介護職」もいるそうですね。

A：(1)はい。理学療法士や介護福祉士、支援相談員など老健施設である「おとなの学校」の自称イケメン男子5名が「エバンジェリスト(伝道師)」という生徒たちと共に歌って踊るグループを結成。

(2)私が訪問した6月20日の午後1時30分からは、「ラジオ体操の歌」、石原裕次郎の「嵐呼ぶ男」、坂本九の「上を向いて歩こう」、「見上げてごらん夜の星を」、「しあわせなら手をたたこう」、梓みちよの「こんにちは赤ちゃん」、ドリフターズの「いい湯だな」、地元熊本出身の水前寺清子の「365歩のマーチ」などを、その当時の思い出を語り、また、歌手の写真などを見ながら全員で熱唱。

(3)最後は、エグザイルの「ライジングサン」をメンバー5人が全力で踊って30分あまりの全員参加型の授業を終了。生徒の皆様は終始笑顔を満ちあふれ、17歳若いときの元気を取り戻し充実感に慕っていました。5人は介護職員というよりはスタープレイヤーのようでした。苦勞が絶えない介護職員ですが、この「おとなの学校」では働く喜びや生きがいを見出している職員が多いように思われました。

Q：学習塾の・予備校・私立学校の経営者、先生方にお伝えしたいことはありますか。

A：(1)超少子化のため入学者が年々減少し、医療や介護・福祉に今後進出し活路を見出そうとお考えの先生方も多いと及んでいます。実際に進出している先生もいらっしゃるようです。

(2)そのようなお考えをすることはよくわかりますが、何のために医療や介護・福祉に参入するのかを深くお考えになり、現代社会の問題解決つまり高齢者の質の高い生活の実現(クオリティー・オブ・ライフ)や国や地方の財政破綻回避という相矛盾する命題を追求し、社会的使命を果たすことを目指すべきだと私は考えます。

(3)従来道理の国の自治体からの補助を前提にして授業をスタートをしたならば、国や自治体の財政が破綻すると同時に事業もストップ、多くの場合、倒産という厳しい状況に陥ること

は容易に予想されるからです。

(4)そこで、この高齢者が「学びで元気になるおとなの学校」のようなこの分野のベストプラクティスを、礼を尽くした上で積極的にベンチマークさせて頂き、独自の取り組みをなさることをお勧めいたします。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)今月も読めば必ず親に立つ本を御紹介いたします。1冊目は、おとなの学校を経営するピュア・サポートグループの代表で医師の大浦敬子先生著の「介護がラクになる『たったひとつの方法』」です。おとなの学校を2006年に創業した創業時の理念がわかりやすく述べられています。

(2)ところで、参議院選挙が終了すれば、この秋から日本国の基本法である憲法改正の議論が本格化します。国家とは何か、国家の前提となる「国体」とは何によって担保されるのかという国家の根幹となる議論が避けられません。この議論に最も参考となるのが、福澤諭吉著の「文明論之概略」です。福澤先生は「国体」つまり「外国の倒置を回避する」唯一の手段は「文明」を充実することだと解いておられます。だから、「文明論之概略」なのです。国民の必読の本著は旧漢字ばかりで難解と言われますので、まず斎藤孝先生訳の「ちくま文庫」版で1・2度通読。その後、「岩波文庫版」、できれば「ワイド版」でじっくりと読む。内容が頭に入ったら、丸山真男著「文明論の概略読む(上・中・下)」(岩波新書)で本質的理解を進めることをお勧めいたします。公民である有権者の夏休みの読書として是非お読みください。